

アンサンブル・フィアツェン

Ensemble 14 第4回演奏会



2001年 9月29日(土) 14時30分開演
川口総合文化センター・リリア 音楽ホール

後援 JCDA 日本合唱指揮者協会

第4回演奏会に寄せて・・・

本日は我々のコンサートにお越し下さいまして、心から御礼申し上げます。どうぞ最後までごゆっくり、J.S.バッハの織り成す音の世界に浸ってください。

神とイスラエルの関係を、しばしば婚姻にたとえられることがあります。カンタータの世界における「結婚」とは、無論、花婿イエスと、花嫁とされる信者の結婚、即ち信仰を自分のものとして受け入れる「洗礼を受けること」を指す言葉として理解されるべきでしょう。

本日演奏いたしますカンタータ第140番・・・俗に結婚カンタータとしてよく知られていますが、教会で結婚式を挙げられたご経験のある方ならば、テノールパートのソロによって歌われるこのコラールを耳にされた可能性はかなり高いのではないのでしょうか？！

当アンサンブル14のメンバーの結婚式では、しばしばこのカンタータの終曲のコラールがメンバーによって歌われますので、ご希望の方は先ず御入団をお勧めいたします。

ところで、結婚について、聖書の教えの中に、幾つか興味深い奥義が示されておりますのでここにご紹介いたしましょう。チェックしてみてくださいね???

- 夫は妻を自分より弱いものとして守り、助けてゆかねばならない。(時代錯誤)
- 妻は神に仕えるように夫に仕えなければならない。(夢物語)
- 余念無く主に仕える為には独身が良いが、不自然になるなら結婚が良い。(笑)
- 淫らな行いを避けるために、男はめいめい自分の妻を持ち、また、女はめいめい自分の夫を持ちなさい。(目的が・・・)
- 妻は夫と別れてはいけない。既に別れてしまったのなら、再婚せずに居るか、夫のもとに帰りなさい。(どの面下げて!!?)
- 妻よ、あなたは夫を救えるかどうか、どうして解るのか。(・・・)
- 夫よ、あなたは妻を救えるかどうか、どうして解るのか。(でも、楽しそうだよ!)

注:()内の言葉は、聖書とは何ら拘わりがございません。

辻 秀幸

§ プログラム §

カンタータ第1番 『輝く曙の明星のいと美わしきかな』

Kantate Nr.1 "Wie schön leuchtet der Morgenstern" BWV 1

(2)山田 陽史[T] (3)室橋 明美[S] (4)小林 尚弘[B] (5)内藤 秀司[T]

カンタータ第27番 『たれぞ知らん、わが終わりの近づけるを』

Kantate Nr.27 "Wer weiß, wie nahe mir mein Ende!" BWV 27

(1)鹿島 晶子[S], 中神 康一[A], 室橋 義明[T] (2)室橋 義明[T]
(3)重野 真奈美[A] (4)木藤 裕子[S] (5)武内 崇史[B]

～ 休憩 (15分間) ～

カンタータ第140番 『目覚めよ、とわれらに呼ばれる物見らの声』

Kantate Nr.140 "Wachet auf, ruft uns die Stimme" BWV 140

(2)室橋 義明[T] (3)木下 祐子[S], 大石 峰士[B] (5)大石 峰士[B]
(6)川村 昌子[S], 武内 崇史[B]

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
Johann Sebastian Bach (1685～1750)

指揮 辻 秀幸
声楽 Ensemble14
管弦楽 Millennium Bach Ensemble

ヴァイオリン 大西 律子
長岡 聡季
磯田 ひろみ
徳永 友美
ヴィオラ 続橋 直子
チェロ 中沢 央子
コントラバス 柳沢 智之
ホルン 平井 志郎
大矢 智子
オーボエ 佐々木 美和
佐々木 亜衣
渡辺 恭子
ファゴット 井上 直哉
オルガン 能登 伊津子

カンタータ第1番 『輝く曙の明星のいと美わしきかな』

Kantate Nr.1 "Wie schön leuchtet der Morgenstern" BWV 1

用途：受胎告知祝祭日用

初演：1725年3月25日 ライプツィヒにて

1723年に、ライプツィヒの聖トーマス教会カントルの地位についてからの数年間、バッハが最も精力的にカンタータの作曲を行った時期である。1724年から25年にかけては、いわゆる「コラール・カンタータ」を量産し、第1番は当時40曲ほど書かれたうちの、最後の作品である。

「コラール・カンタータ」とは、既存の特定のコラールに基づいて作られたカンタータを指す。この第1番では、第1曲と第6曲に、フィリップ・ニコライが1599年に書いたコラール『明けの明星のいと美しきかな』の旋律と歌詞が転用されている。また第2曲から第5曲にも、同コラールの第2節から第6節の歌詞が、一部修正した上で用いられている。

受胎告知日祝祭用とされているが、名画でお馴染みの場面(天使ガブリエルとマリアのやり取り)が直接歌われているわけではない。歌詞の内容は、救世主たるイエス=キリストの到来を待ち望み、賛美し、また彼を遣わした神に感謝する信者の思いであり、それにふさわしい華やかさや力強さを持った曲が並ぶ。

キリストを夜明けの空に輝く明星に例えて賞賛する、冒頭の長大な合唱。ソプラノが繰返したつぷりとしたコラール旋律を受け持ち(ちなみに

この旋律は、終曲コラールの主旋律ともなっている)、他パートはその下で多様な掛け合いを見せる。随所に出てくる、星の瞬きを思わせるヴァイオリンの細かい動きが印象深い。

第2曲と第4曲のレチタティーヴォでは、イエスと、その救いへの揺るぎない信頼が語られ、第3曲と第5曲のアリアでは、大きな期待に満ち、終生神を称えんと誓う信者の姿が、踊るようなリズムに乗せて歌われる。

そして再び声を揃え、主が自分達を天国に迎え入れてくれることを確信した喜びのコラールで締めくくられる。

このカンタータは、祝祭というどこか厳かな響きのある言葉より、むしろお祭り騒ぎと表現したくなるほどの、信者の手放しの喜びに満ちている。私はそんな印象を受けました。受胎告知という最大級の慶事なればこそ、常とは違う高揚感が、ここにはある気がします。

お聴きくださる皆様にも、そんな風に感じていただけたら幸いです。

<A. Murohashi>

カンタータ第27番『たれぞ知らん、わが終わりの近づけるを』

Kantate Nr.27 "Wer weiß, wie nahe mir mein Ende!" BWV 27

用途：三位一体節後第16日曜日

初演：1726年10月6日 ライプツィヒにて

カンタータ第27番は、1726年の三位一体節後第16日曜日の礼拝のために作曲された。バッハは41歳、ライプツィヒのトーマス・カントルに就任して6年が経ち、教会カンタータを精力的に書き続けていた。しかし、6月には娘のクリスティーナ・ゾフィア・ヘンリエッタを5歳で失うという大きな不幸に見舞われている。

礼拝では、日によって読まれる聖書の言葉が決められており、カンタータの演奏や祈りを通して、信仰生活の上で思いを致すべきことが具体的に示される。三位一体節後第16日曜日にあたる聖書の箇所は、くしくも、イエスが一人息子を亡くした婦人を哀れみ、棺に手をかけて甦らせた奇跡の場面（ルカのための福音書 第七章 11-17節）であった。カンタータには、死への恐れや、信仰によって死の時を安らかに受け入れようという意志が様々な形で表されている。

第1曲では、コラール合唱とレチタティーヴォが交互に歌われる。近づく死の足取りのような通奏低音に対して、オーボエとヴァイオリンのトリ

ルは死を恐れて震える心を表しているかのようである。

第2曲では、テノールが、神を信じる者として死の時を迎える決意を歌う。第3曲は、アルトが「Willkommen! / よこそ」と喜びながら死の時を迎えようと明るく歌う。ロずさみたくなるような「Willkommen」の音型や、半音で下降する「Tod/死」や、「Plagen/ 悩み」の音型など、言葉の意味と音の動きは一致するように書かれている。第4曲では、ソプラノが天国への憧れを熱を込めて歌う。第5曲では、子守歌のようにゆっくりした旋律と憚たしい動きの旋律が繰り返されるなか、バスが「Gute Nacht / おやすみ」という言葉でこの世に別れを告げる。終曲には、かつてトーマス学校の教師であったローゼンミュラー(Johann Rosenmüller 1619-84)が作曲した5声のコラールがそのまま用いられている。後半の3拍子の旋律は、天使がゆっくり翼を動かして高い天に留まっているようで、たいへん美しい。

<A. Kashima>

カンタータ第140番『目覚めよ、とわれらに呼ばれる物見らの声』

Kantate Nr.140 "Wachet auf, ruft uns die Stimme" BWV 140

用途：三位一体節後第27日曜日

初演：1731年11月25日 ライプツィヒにて

本カンタータは、フィリップ・ニコライ(ルター派教会の牧師・神学者、1556~1608)の同名コラール(1599)を下地として作成され、曲のテーマは、新約聖書マタイ福音書の第25章より採られている。

キリストを花婿に、そして信者たちの魂を迎えにでる娘たち(花嫁)に見立て、天国をキリストとの結婚というたとえとして説いている。

第1曲。軽快な付点のリズムと、ヴァイオリンの軽やかな調べが花婿(=キリスト)が近づいて来たことを告げる。それを見つけた物見たちは口々に「Wach auf!」(目覚めよ!)と叫ぶ。天空に響き渡るような晴れやかなソプラノのコラールに引つ張られ、目を覚ました乙女たちが、期待に満ちてキリストを迎える準備を行う様子が、アルト・テノール・バスの対旋律に表されているよう。

第2曲で改めてテノールが「花婿が来る! 娘たちよ目覚めよ!」と声を発すると、第3曲では、魂(花嫁)がキリストによる至福を切望するのに対して、キリストがなだめ、落ち着かせるかのような二重唱が奏でられる。オーケストラ旋律のうねりが、キリストを待ちわびる心境をあらわしているようで印象的。

第4曲テノールの深いコラール。キリストを誉め讃え、祝宴の準備ができたことを告げる。第5曲でイエスが花嫁を呼び、「永遠の契り」を宣言する。第6曲。花嫁のソプラノが歌う、喜びに満ちあふれた旋律に、キリストのバスが寄り添い美しいデュエットが奏でられる。

第7曲。主キリストを讃え、婚礼の喜びを表現する溢れんばかりのコラールが鳴り響く。

2つの二重唱に加え、難しいレチタティーヴォ、重厚なコラールと与えられた課題はあまりに大きいものでしたが、全もって表現力の乏しい私たちに、辻先生は様々な指示・たとえ・踊り・パフォーマンスで指導下さいました。

「あくまでも優雅に!」「全てのものを癒すような」「喜びに狂わんばかりに」と出された指示の数々、なによりもキリストとの婚礼という信者にとって限りない喜びの思いを、音楽でお伝えすることができるのなら、それこそ私たちの喜びとなるでしょう。

<Yu. Kino>

1 “Wie schön leuchtet der Morgenstern”

1. (Coro)

Wie schön leuchtet der Morgenstern
voll Gnad und Wahrheit von dem Herrn,
die süße Wurzel Jesse!
Du Sohn David aus Jakobs Stamm,
mein König und mein Bräutigam,
hast mir mein Herz besessen:
lieblich, freundlich, schön und herrlich,
groß und ehrlich reich von Gaben,
hoch und sehr prächtig erhaben.

2. (Recitativo)

Du wahrer Gottes und Marien Sohn,
du König derer Auserwählten,
wie süß ist uns dies Lebenswort,
nach dem die ersten Väter schon
so Jahr als Tage zählten,
das Gabriel mit Freuden dort in Bethlehem verheißen!
O Süßigkeit, o Himmelsbrot,
das weder Grab, Gefahr, noch Tod
aus unsern Herzen reißen.

3. (Aria)

Erfüllet, ihr himmlischen göttlichen Flammen,
die nach euch verlangende gläubige Brust!
Die Seelen empfinden die kräftigsten Triebe
der brünstigsten Liebe, und schmecken
auf Erden die himmlische Lust.

4. (Recitativo)

Ein ird'scher Glanz,
ein leiblich Licht, rührt meine Seele nicht;
ein Freundenschein ist mir von Gott entstanden,
denn ein vollkommenes Gut,
des Heilands Leib und Blut,
ist zur Erquickung da.
So muß uns ja der überreiche Segen,
der uns von Ewigkeit bestimmt,
und unser Glaube zu sich nimmt,
zum Dank und Preis bewegen.

5. (Aria)

Unser Mund und Ton der Saiten
sollen dir für und für Dank und Opfer zubereiten.
Herz und Sinnen sind erhoben,
Lebenslang mit Gesang, großer König,
dich zu loben.

6. (Choral)

Wie bin ich doch so herzlich froh,
daß mein Schatz ist das A und O,
der Anfang und das Ende.
Er wird mich doch zu seinem Preis
aufnehmen in das Paradeis;
des klopf ich in die Hände.
Amen, Amen,
komm, du schöne Freudenkrone,
bleib nicht lange,
deiner wart ich mit Verlangen.

1 「輝く曙の明星のいと美わしきかな」

1.(合唱)

明けの明星の美しく輝くこと！
それは主の恩寵と真実に満ち、
甘美なエッサイの根だ。
ヤコブ族から出たダビデの子、
私の王、私の花婿であるあなたは、
私の心を所有している。
愛らしく友好的で美しく素晴らしく
偉大で誠実で天賦の才に富み
高貴で、とても華麗で、荘重なあなたが。

2. (レチタティーヴォ)

真の神の子であり、マリアの子であるあなた、
選び抜かれた人々の王であるあなた
この生命の言葉は私たちににとってなんと甘美なものか
古い先祖も年月を教え、ガブリエルはベツレヘムにて
めでたきことを予言した。
ああ、甘いもの、天国のパン
墓も危険も死でさえも私たちの心から
それを奪い取ることは出来ない。

3. (アリア)

どうぞ満たしてください、貴方たち、天国の炎よ、
貴方たちを求める信心深いこの胸の内を！
私たちの魂は熱烈な愛の強い衝動を覚え、
この地上で天国の喜びを味わうのです。

4. (レチタティーヴォ)

この世の輝きや現世的な光は
私の魂を感動させることはない。
神によって私には喜びの光が生まれる
完全な富、すなわち救い主の肉体と血は
私たちを元気付けてくれるものなのだ。
あふれんばかりの豊かな祝福
～永遠に私たちのために定められ
私たちの信仰のために得られるもの～は、
私たちに感謝と賛美の思いを強く抱かせる。

5. (アリア)

私たちの口と弦の調べは
あなたのために感謝と生贄の用意をしよう。
心と意識は高く掲げられる
生涯歌うこと、大いなる
主なるあなたを褒め称えるために。

6. (合唱)

私の心は何と喜びに満ちていることか
私の宝 アルパにしてオメガ
始まりにして終わり。
彼はついに私を彼の賛美へ加え
パラダイスへ受け入れて下さり、
私は手を打ち鳴らして喜ぶ。
アーメン、アーメン、
来て下さい、あなたは美しい喜びの冠
どうぞ長引かせないで下さい。
私はあなたをこがれ待つ。

27 “Wer weiß, wie nahe mir mein Ende!”

1. (Coro e Recitativo)

Wer weiß, wie nahe mir mein Ende?
Das weiß der liebe Gott allein,
ob meine Wallfahrt auf der Erden kurz
oder länger möge sein.
Hin geht die Zeit, her kommt der Tod.
Und endlich kommt es doch so weit,
daß sie zusammentreffen werden.
Ach, wie geschwinde und behende
kann kommen meine Todesnot!
Wer weiß, ob heute nicht
mein Mund die letzten Worte spricht!
Drum bet ich alle Zeit:
Mein Gott, ich bitt durch Christi Blut,
machs nur mit meinem Ende gut!

2. (Recitativo)

Mein Leben hat kein ander Ziel,
als daß ich möge selig sterben
und meines Glaubens Anteil erben;
drum leb ich allezeit zum Grabe fertig und bereit,
und was das Werk der Hände tut,
ist gleichsam,
ob ich sicher wüßte,
daß ich noch heute sterben müßte;
denn: Ende gut macht alles gut.

3. (Aria)

Willkommen! will ich sagen,
wenn der Tod ans Bette tritt.
Fröhlich will ich folgen,
wenn er ruft, in die Gruft.
Alle meine Plagen nehm ich mit.

4. (Recitativo)

Ach, wer doch schon im Himmel wär!
Ich habe Lust, zu scheiden und mit dem Lamm,
das aller Frommen Bräutigam,
mich in der Seligkeit zu weiden.
Flügel her!
Ach, wer doch schon im Himmel wär!

5. (Aria)

Gute Nacht, du Weltgetümmel,
Jetzt mach ich mit dir Beschluß,
ich steh schon mit einem Fuß
bei dem lieben Gott im Himmel.

6. (Choral)

Welt ade! ich bin dein müde,
ich will nach dem Himmel zu,
da wird sein der rechte Friede
und die ewge stolze Ruh.
Welt, bei dir ist Krieg und Streit,
nichts denn lauter Eiterkeit,
in dem Himmel allezeit Friede,
Freud und Seligkeit.

27 「たれぞ知らん、わが終わりの近づけるを」

1. (合唱とレチタティーヴォ)

誰が私の最期がどの程度近づいたかわかるだろうか。
それは愛する神のみぞ知る
私のこの地上での巡礼の旅が短かくあるべきか、
長くあるべきかを。
時は向こうへ去り、死はこちらへやって来る。
そしてとうとういつかは時と死とが
出会う日が来るのだ。
ああ、こうも早く、素早く
私の死の苦悩は来るのか。
一体誰が知るのか、私の口が最期の言葉を叫ぶのが
今日でない。だから私はいつも祈るのだ。
我が神よ、私はキリストの血によりて請う、
私の最期だけでも良いものに変えてください。

2. (レチタティーヴォ)

私の命は、
至福なる死を迎え、私の信仰を継ぐこと以外に
目的など持たない。
それゆえいかなる時も墓へ行く準備が出来ていながら
生きてゆき、
我が手のする仕事は
たとえ今日死んでしまうことを確信していても変わることがない。
なんといっても、終わりがよければ総て良いのだ。

3. (アリア)

「ようこそ」死が私の臥所に歩み来る時、
私はそう言うだろう。
死が墓から呼びかけるとき、私は喜んで従うだろう。
私は総ての私の苦しみを持っていく。

4. (レチタティーヴォ)

ああ、早く天国にありたいものだ。
(私は)世と別れ、総ての信者の花婿なる子羊とともに
至福の牧場で草を食みたいものだ。
翼よ、ここへ。
ああ、早く天国にありたいものだ。

5. (アリア)

さらば、この世の混乱よ
今私はついに赴く
私は既に天国の愛する神のそばに
片足を踏み入れている。

6. (合唱)

この世よ、ごきげんよう。私はあなたにうんざりだ、
私は天国へ向かう、
そこには真の平安と永遠の誇り高き安らぎがある。
この世よ、あなたのもとには戦争といさかいと、
なにより空しさばかり、
天国にはいつでも平安と喜びと至福がある。

1. (Choral)

Wachet auf, ruft uns die Stimme
 der Wächter sehr hoch auf der Zinne,
 wach auf, du Stadt Jerusalem!
 Mitternacht heißt diese Stunde;
 sie rufen uns mit hellem Munde:
 wo seid ihr klugen Jungfrauen?
 Wohl auf, der Bräutigam kömmt;
 steht auf, die Lampen nehmt!
 Alleluja!
 Macht euch bereit zu der Hochzeit,
 ihr müsset ihm entgegen gehn!

2. (Recitativo)

Er kommt, er kommt, der Bräutigam kömmt!
 Ihr Töchter Zions, kommt heraus,
 sein Ausgang eilet aus der Höhe in euer Mutter Haus.
 Der Bräutigam kömmt, der einem Rehe
 und jungen Hirsche gleich auf denen Hügeln springt
 und euch das Mahl der Hochzeit bringt.
 Wachet auf ermuntert euch den Bräutigam zu empfangen!
 Dort, sehet, kömmt er hergegangen.

3. (Aria (Duetto))

Wenn kömst du, mein Heil?
 Ich komme, dein Teil.
 Ich warte mit brennendem Öle.
 Eröffne den Saal zum himmlischen Mahl,
 Ich öffne den Saal zum himmlischen Mahl,
 komm, Jesu!
 ich komme; komm liebliche Seele!

4. (Choral)

Zion hört die Wächter singen,
 das Herz tut ihr vor Freuden springen,
 sie wachet und steht eilend auf.
 Ihr Freund kömmt vom Himmel prächtig,
 von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig,
 ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf.
 Nun komm, du werthe Kron, Herr Jesu, Gottes Sohn!
 Hosianna!
 Wir folgen all zum Freudensaal
 und halten mit das Abendmahl.

5. (Recitativo)

So geh herein zu mir, du mir erwählte Braut!
 Ich habe mich mit dir von Ewigkeit vertraut.
 Dich will ich auf mein Herz,
 auf meinen Arm gleich wie ein Siegel setzen
 und dein betrübtes Aug ergötzen.
 Vergiß, o Seele, nun die Angst, den Schmerz,
 den du erdulden müssen;
 auf meiner Linken sollst du ruhn,
 und meine Rechte soll dich küssen.

1. (合唱)

目覚めよ、と私たちを呼ぶ
 とても高い凸壁から見張りの声がする。
 目覚めよ、エルサレムの街よ。
 夜中はこのときを意味する、
 すなわち私たちを口々に晴れやかに呼ぶ
 賢き乙女らはどこにいるのだろうか？
 いざ、花婿は来たる。
 起き出でランプを手に取り。
 アレルヤ！
 準備を整えよ、
 結婚式にできるべく花婿を出迎えなさい。

凸壁*

城などの上に鋸歯状に並ぶ守備軍掩蔽用の壁のこと

2. (レチタティーヴォ)

彼が来る、彼が来る、花婿がやって来る。
 シオンの娘たちよ、出てきなさい、
 彼は高いところから速やかに出であなた達の母の家に入る。
 花婿が来る、まるでノロジカか若い鹿のように丘を跳び
 あなた達に結婚式の宴をもたらす。
 目覚めよ、眠気を覚ませ、花婿を迎えるために。
 そこで見るのだ、彼がこちらへやってくるのを。

3. (アリア(二重唱))

私の至福であるあなたはいつ来るのですか。
 私はあなたの一部として来る。
 私は油をともして待つ。
 天の宴のための広間を開けてください。
 私は天の宴のため広間を開ける。
 来てください、イエスよ。
 私は来る、来なさい、愛する魂よ。

4. (合唱)

シオンでは見張りが歌うのが聴こえる
 心は喜びにはずみ
 目覚め急ぎ出で立つ。
 天の華麗な友は来たる、
 慈悲は強く、真実は力強く
 光は明るく、星は昇る。
 さあ、来てください。尊い冠、主イエス 神の子よ、
 ホザンナ！
 私たちは皆喜びの広間に集い、聖餐を催す。

5. (レチタティーヴォ)

さあ、私の中に入っておいで、私のために選ばれた花嫁よ。
 私はあなたと永遠の昔から約束されていた。
 あなたを私は印鑑と同じように私の心と私の腕とに置き
 あなたの悲しげな目を喜ばせる。
 忘れなさい、魂よ、さあ不安や苦悩に
 耐え忍ばねばならなかったことを。
 私の左手にあなたは憩い、
 私の右手はあなたに口づけする。

6. (Aria (Duetto))

Mein Freund ist mein,
Und ich bin sein,
die Liebe soll nichts scheiden;
Ich will mit dir
Du sollst mit mir
in Himmels Rosen weiden,
da Freude die Fülle,
da Wonne wird sein.

7. (Choral)

Gloria sei dir gesungen
mit Menschen und englischen Zungen,
mit Harfen und mit Zimbeln schon.
Von zwölf Perlen sind die Pforten
an deiner Stadt sind wir Konsorten
der Engel hoch um deinen Thron.
Kein Aug hat je gespürt,
kein Ohr hat je gehört solche Freude.
Des sind wir froh,io,io!
ewig in dulci júbilo.

6. (アリア(二重唱))

私の友は私のもの
そして私はあなたのもの
この愛は引き離されることはない
私はあなたと共に
あなたは私と共に
天国の薔薇苑で憩おう、
そこには喜びが満ちあふれ、
大いなる幸せがある。

7. (合唱)

栄光はあなたのために歌われる、
人々と天使の舌によって、
堅琴やシンバルとともに、きっと。
あなたの街の門は、12の真珠から成り、
我らはあなたの高き玉座を囲む天使の仲間なのだ。
そのような喜びを
目はこれまでに感じたことはなく、
耳はかつて聴いたことはない。
なんと喜ばしいことだろう、イオ、イオ!
永遠に甘美な喜びのなかに。

< 歌詞対訳 A. Kawamura >

指揮 辻 秀幸

Ensemble 14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L.グッアリーニ女史、F.タリアヴィーニ、H.リングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを努め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・また指揮者として、その活動は常に注目を集めている。洗足学園大学附属高等学校音楽科講師、品川介護福祉専門学校講師、ぐるーぷ・なべ幹事、日本合唱指揮者協会実行委員、川崎市民オペラ理事、iARTS理事。共著に「わかって歌おうーレクイエム発音講座」がある。

ミレニアム・バッハ・アンサンブル

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

佐々木美和を中心とする、各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。田園調布教会『マタイ受難曲』演奏会(2000年4月)において辻秀幸先生の呼びかけにより結成された。Ensemble 14との共演は、第2回演奏会(2000年9月)、第3回演奏会(2001年3月)に引き続き、4度目となる。

アンサンブル・フィアツェン
声 楽 **Ensemble14**

辻 秀幸先生の呼びかけにより、J. S. バッハのマタイ受難曲を歌う目的で1998年8月に発足したアマチュア合唱団。“14”(vierzehn)は
バッハ自身も用いたといわれるBachを表す数字で、b = 2、 a = 1、 c = 3、 h = 8 を足し合わせたもの。
1999年4月、奥沢教会(世田谷区)にて「マタイを歌う会」とともに『マタイ受難曲』の抜粋演奏(ピアノ伴奏)、2000年4月、田園調布教会にて
「マタイを歌う会」と共に『マタイ受難曲』全曲演奏を行う(いずれも第二コーラスとして参加)。単独の演奏会としては、1999年9月 第1回演
奏会(カンタータ150番、155番、106番)、2000年9月 第2回演奏会(カンタータ196番、131番、182番)、2001年3月 第3回演奏会
(カンタータ22番、48番、23番)と、これまでいずれもバッハの教会カンタータを取り上げている。

Ensemble14 メンバー

指揮者 : 辻 秀幸 練習ピアニスト : 田城 章子
代 表 : 中神 康一 副代表 : 武内 崇史

Soprano 鹿島 晶子 加藤かおり 川村 昌子 木藤 裕子 木下 祐子 小林 総子 湊 佳代 室橋 明美
(大久保淳子 大山永里子 田中百合子 中神 幸穂 難波 愛 林 玲子)
Alto 大石 明子 小林 朋子 重野真奈美 富岡 愛子 中神 康一 (日向 典恵)
Tenor 内藤 秀司 室橋 義明 山田 陽史 (小泉 孝博 中原 浩一)
Bass 大石 峰士 木下 陽児 小林 尚弘 武内 崇史 山田 真一
(太田 浩樹 佐藤 紀之 林 秀博)

☆☆☆☆ 一緒に Bach を歌いませんか ☆☆☆☆

Ensemble14では、見学・新規入団者を随時受付しています。
バッハが大好きな方はもちろん、バッハを初めて歌う方も歓迎です。
辻先生の熱意とユーモアあふれる指導、そして音楽を愛する合唱団員があなたを待っています。
私達の活動に少しでも興味をお持ちの方は、まずは御気軽にお問い合わせください。

指 導 辻 秀幸 先生
練 習 日 毎週土曜日 (10:00~12:00 または 13:00~17:00)
練 習 場 所 自由が丘(東急東横線・大井町線) 武蔵小杉(東急東横線)など
お 問 い 合 わ せ 大石(Tel 045-566-2245) 室橋(e-mail YRM01040@nifty.ne.jp)
ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.netpassport.or.jp/~wkgami/ensemble14>

☆☆☆☆ 次回演奏会のご案内 ☆☆☆☆

Ensemble14 第5回演奏会

2002年3月16日(土) 三鷹市芸術文化センター・風のホール
カンタータ第36番「喜び勇みて羽ばたき昇れ」BWV36
カンタータ第61番「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」BWV61
ミサ曲ト短調 BWV235